



学校・家庭・地域をつなぐ

塩浜小 学校だより

令和2年7月10日

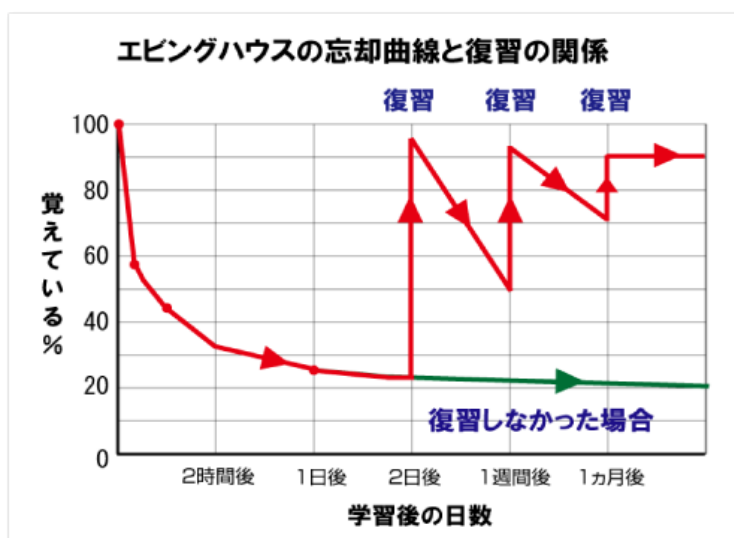
N o 12

学習の定着には、家庭学習が効果的！

7月に入り、「いよいよ夏休みが近づいてきた！」と思いたいところですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1か月半ほどの臨時休業になりましたので、終業式は7月31日となります。どの学年も3密（①密閉②密集③密接）を避けながら、夏休みまでのあと3週間を乗り切ってほしいと思っています。

右下のグラフは、エビングハウスの「忘却曲線」です。

人間の脳が、入ってくる情報のすべてを覚えたとしたら、5分間でパンクすると言われていいます。そのため、脳は覚えておく必要のないことや古い記憶を忘れていくことで脳の中を整理しています。勉強した内容は、脳の中の「^{かいば}海馬」というところに情報として入りますが、そこで情報を整理して「いらぬ」と判断したものは「忘れる」仕組みになっています。右のグラフによると、学習後1時間経過すると56%、1日経過すると74%の情報が忘れ去られてしまいますが、定期的に復習を取り入れ学習することで、記憶は確実に定着していくことを示しています。これを研究した心理学者が「エビングハウス」です。



「人間は忘れる動物」ではありますが、繰り返し復習することで定着していきます。1学期に学校で学んだこと、毎日の授業で学習したことを、ドリルやプリントなどを使って繰り返し学習したり、教科書をもう一度読み返したりして、家で復習をすることはとても有効です。学校から出された課題だけでなく、自分で考えて自主的に学習する自主勉強も大いに力をつけることができます。ぜひ、チャレンジしてみましょう。

ありがとうございます・・・

先日、あるご家庭に担任からお電話をさせていただき、家庭学習(宿題)の大切さについてお伝えさせていただきました。すると、次の日の朝、家でしてきた宿題を持って子どもが元気に登校してきました。後で、子どもに話を聞くと、「お父さんが宿題をしなさい」と言って見てくれたそうです。お忙しい中、お子さんに声をかけていただきありがとうございました。

子どもの学力は、学校の授業だけではなかなか定着しにくいものです。ご家庭の協力をいただくことで、子どもたちはより意欲的に愉しく学習に取り組むことができます。学校と家庭が連絡をとり合いながら同じ方向をむいて進むことで、子どもは確実に成長していくのだと改めて実感しました。これからも、どうぞよろしくをお願いします。

5月25日に国の緊急事態宣言が解除され、外出や施設の使用等が段階的に緩和されてきたところですが、東京都の新規感染者数が、緊急事態宣言が発令される直前に近い数となっているようです。このような状況をふまえ、教育委員会から新型コロナウイルス感染症対策専門会議より示された「新しい生活様式」の実践例を再度見直し、一人ひとりの日常生活に取り入れるよう指示が来ましたのでお知らせします。

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本:①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
- 遊びに行くなら屋内より屋外を選ぶ。
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用
- 家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）

※高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 □咳エチケットの徹底 □こまめに換気
- 身体的距離の確保 □「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



外出控え 密集回避 密接回避 密閉回避 換気 咳エチケット 手洗い

マスクが届きました・・・

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、国が各学校へ配布するとされていた布製マスクの2枚目が届きました。1枚目のマスクは5月の中旬に届き、お子さんを通じて渡させていただきました。

今回は2枚目です。本日、お渡しさせていただきます。

最近、教室内でマスクをするのを忘れてしまったり、朝はしていたのに給食の頃には無くしてしまったりする子が目につきます。私たちも気を引き締め、自分たちの生活を振り返り、もしかしたらやって来るかもしれないと言われている第2波に備えたいものですね。

